「級長の話」に思う

朝の会の巡回時に、「級長の話」に出くわすときがあります。リーダーとして話す経験を積ませたいという思いから、取り入れられているようです。私にも取り入れていたときがありました。でも、それはほんの一時。すぐに違うやり方に変えました。

最大の理由は、級長の話が呼びかけや注意喚起になってしまうからです。「そうであっても、リーダーが語ることは大切だ」という考え方もあるでしょう。しかし、級長からしてみると、毎日毎日仲間の前で語らなければならないというプレッシャーを感じているはずですし、級長と言えども一生徒、学級を見なければとわかっていても、自分のことで忙しい時もあるはずです。でも、毎日語らなければならない……そう考えると、話がその場で考えた呼びかけや注意喚起になってしまうのはやむをえないことではないでしょうか。

今日も、ある学級の級長の話を聞きました。一分もかからない短い話でしたが、私の予想は的中しました。級長の話は往々にして「今日は」や「昨日は」から始まります。話しながら、授業の予定が書かれているホワイトボードをちらちら見ながら話が進みます。（その日一日の流れを確認しながら話すためです。）話の語尾が「〜しましょう。」「〜してください」になりがちです。

私の学級の級長も同じでした。そこで、私は級長に言いました。

「明日から朝の会帰りの会の『級長の話』はやめるよ。やめるけど無しではないよ。最低一週間に一度は予定黒板のこのスペースに、級長としての『思い』や『考え』を書きなさい。『〜しましょう』『〜してください』という表現は使ってはだめ！『よかった』『だめだった』もNG！初めは書きにくいだろうから、学級の中で腹が立ったことを書いてごらん。腹が立つことは書きやすいからね。」

そのときから、級長の話の中身が変わりました。級長が初めて書いた内容は確か、「朝の部活動終了後、教室に入るのが遅い生徒」についてだったと思います。三年生だったので、最上級生として後輩より遅いのはおかしいと書いていました。初めてにしてはインパクトのある内容でしたのでよく覚えています。

もちろん、腹が立つ内容ばかりではありません。感動したことやうれしかったことなどもそのときの級長は積極的に書きました。書き尽くせていないだろうと思ったときは、私の話の時に、級長に振りました。振られた級長は、結構熱く話していました。お陰で、私の話の時間が少なくなりましたけどね。

級長のみなさん、話す時間があるのなら注目を集める語り方や内容にしてはどうでしょうか。

（一月二十日　記）